

ふるさと じまん

わたしのお気に入り

愛知県



どうする愛知県

どうなる愛知県

愛知県は日本のほぼ中央に位置しており、新幹線のぞみで名古屋から東京まで約1時間半。大阪へは50分、古都京都へは30数分で行くことができます。さらに2027年開業予定のリニア中央新幹線では、東京名古屋間の所要時間は僅か40分になるそうです。県内にはトヨタ自動車をはじめとする数多くのグローバル企業があり、工業生産高日本一を40年間以上続けています。

一方、歴史を振り返ってみますと、400年前戦国時代の乱世に終止符をうった3人の武将は、いずれも愛知県出身です。織田信長とその家臣木下藤吉郎（豊臣秀吉）は愛知西部、尾張の生まれであり、盟友徳川家康は東部を占める三河の出生です。戦国時代末期天下統一を目指した武将たちの中でも、強力な騎馬隊を有した甲斐の武田信玄や越後の上杉謙信より、やはり地理的に京に近いという条件は織田信長にとって大きなアドバンテージであったと思われます。

ここで狂歌を一首。

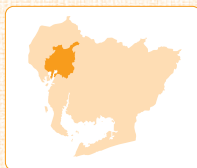
「信玄に伝えてやりたし中央道 名神乗り継ぎ京まで半日」

今では甲府から京都まで車で半日です。もし戦国時代に整備された高速道路があったとするならば、武田の騎馬隊なら4、5日で京までたどり着けたはずです（歴史妄想）。

まず信長が上洛して天下布武の号令を発し、後を継いだ秀吉は天下統一を果たし、最後に家康が250年続く江戸幕府を開きました。江戸時代に「天下餅」として川柳・狂歌に唄われた「織田がつき羽柴がこねし天下餅 座りしままに 食うは徳川」。戦国乱世を終わらせ天下統一した三英傑は揃って愛知県から出ているという、まさにお国自慢でした。

成瀬 健（昭和50年卒）

愛知県からのふるさとじまんをご紹介します。愛知県は西部の尾張地区、東部の三河地区、その間の名古屋地区という3つの地区に分かれています。今回は3つの地区からそれぞれのじまんを集めてみました。



名古屋地区

澤 政樹（平成1年卒）

名古屋市は愛知県西部に位置する都市で、現在233万人が暮らしております（2022年9月1日現在）。

名古屋といえば三英傑（徳川家康、豊臣秀吉、織田信長）が有名ですが、今回は東海道の宿場町として賑わった、宮の渡しについ



宮の渡し

てご紹介させていただきます。

名古屋市熱田区と南区との間に、常夜灯と鐘楼そして小さな栈橋を備えた「宮の渡し公園」があります。この辺り一帯はかつて「熱田湊」と呼ばれていました。東海道随一の宿場町「宮宿」と、現在の桑名市「桑名宿」を海上航路で結ぶ「七里の渡し」の船着場があった場所です。

七里の渡しは、宮宿と桑名宿を結ぶ東海道唯一の海路で、その距離が七里（27.5km）であったことから、そう名付けられました。この海上ルートは、東海道の宿駅制度（制定は1616年頃といわれている）が設けられる以前、すでに鎌倉・室町時代から利用されてお

り、古くから東西を結ぶ重要な交通インフラでした。

「宮の渡し」の宮とは熱田神宮のお宮さんのことで、三種の神器の1つである草薙剣（くさなぎのつるぎ）を祀る神社としても知られています。中世以降は日本第三之鎮守（伊勢神宮、石清水八幡宮に継ぐとする意）として国家的な崇拜を受けるに至ります。

現在では熱田区の南部より南は広大な干拓地と埋立地があり、その先には名古屋港が広がっております。

名古屋港は、名古屋市、東海市、知多市、弥富市、飛島村に広がる大きな港です。なかでも、港の陸地部分（臨港地区）の面積と

取り扱いをした貨物量は、国外と国内あわせて年間約1億6,855万トンで日本一です（令和2年）。

宿場町として栄えた熱田は、古くは熱田社を中心とした門前町であり、東海道唯一の陸と海の分岐点であっただけでなく、美濃路・佐屋街道といった各地方からも交通と文化が集まってくる場所でもありました。江戸時代には本陣があり、東海道五十三次の41番目の宿場町として多くの人が集まり、東海道随一のにぎわいをみせていました。人口も1万人程度だったと言われていました。

大きなお櫃（おひつ）で鰻とご飯をまぜる（まぶす）「ひつまぶし」発祥の店と言われる「あつた蓬萊軒」は、この宮宿に料亭として明治6年に創業されました。最高級の備長炭で香ばしく焼き上げる職人技、明治より150年継ぎ足された秘伝の絶品タレは、創業時から守られてきたものです。現在は、名古屋市に4店舗を構えていて名古屋めしとして、とても有名で人気のお店です。

令和2年五大港取扱貨物量（単位：トン）

港の名前	合計	国外	国内
名古屋港	168,547,742	107,624,016	60,923,726
東京港	80,882,206	46,403,433	34,478,773
横浜港	93,620,458	65,211,810	28,408,648
大阪港	79,990,365	33,724,355	46,266,010
神戸港	82,884,411	46,261,977	36,622,434

あつた蓬萊軒・ひつまぶし





尾張地区

夫馬眞也（昭和44年卒）

国宝犬山城

戦国時代、国盗りの舞台となったこの城は、1537年織田信長の叔父、信康により築城が始まったとされています。信長、秀吉と時代が移り、家康の時代から成瀬家が長く城主を務め、明治には県の所有となりましたが、明治24年の濃尾地震での天守閣被害改修を条件に、成瀬家に譲渡、平成16年に財団に移管するまで、日本で唯一個人所有の城でした。

天守外回廊に出てみましょう。

木曾川の山岳丘陵地帯から平地への入り口で、美濃との国境にあるこの城は、尾張犬山から西へ南へ熱田の海まで40数kmに及ぶ流れが生む扇状地の要にあり、長良川・揖斐川流域も含め広く濃尾平野を形作っていることが見て取れます。南方には若き日の信長が過ぎた清洲城・小牧山城が、西には流れの向こうに岐阜城、さらに

冬には雪山となり日本海から関ヶ原を抜け伊吹嵐（おろし）といわれる北西の寒風を雪とともに、濃尾平野にもたらす百名山の1つ・伊吹山が美しい姿をみせています。

国宝 如庵

城下に目を落としてみましょう。

新しくなったホテルの日本庭園有楽園に、「国宝茶室・如庵」があります。信長の実弟、織田有楽斎が波乱に富んだ生涯の晩年、武家を捨て平穏な茶人となり、1618年72歳で京都建仁寺境内に建てた茶室です。幾度もの移築の末、昭和45年に有楽斎の生まれ故郷、尾張に安住の地を得ました。庭を前に、一服いかがですか。

小牧を起点とする高速道、東に東名、北に中央道、西に名神、さらに東海北陸、北陸道、南西に名古屋高速を経て名阪道、伊勢道、そして南へ名古屋空港を経てさら

に南下、伊勢湾岸道とクロスし、知多半島道、中部国際空港（セントレア）のある常滑焼の街へ。ここで忘れてはいけないのが尾張東部の瀬戸物の街、瀬戸です。日用食器から芸術品まで、陶工が日々研鑽しています。

大口屋 三瓦羅

木曾川の流れのすぐ南にある江南市、一宮市周辺は、川がもたらした肥沃な土壌と豊かな地下水のおかげで、古く縄文中期よりの遺構がみられ、現在まで住みよい所となっており、木曾川の水は遠く知多半島突端までも届けられています。我が町江南市布袋には3件の造り酒屋もあり、古い町並みにある「大口屋」では京仕込みの麩饅頭「三瓦羅」を求めることができます。おいしいお茶どうぞ。

最後に、近くで春にいっぱいの花を咲かせる彼岸桜の下には、30

国宝犬山城



国宝 如庵



大口屋 三瓦羅



歳で清洲城より本拠を移した信長の室となり、本能寺の変で信長の後を追って二条御所で自刃した

信忠、そして信雄、家康の嫡男ながら不遇な死をとげた信康の正室・徳姫を生んだこの地の豪族、

生駒家の娘・吉及の墓碑が、静かに東方の小牧山城を見つめています。



三河地区

鈴木裕仁（平成2年卒）

ご紹介

三河地方は愛知県の東部で西三河（岡崎寄り）と東三河（豊橋寄り）に分けられます。

岡崎市、刈谷市、豊田市、知立市、安城市、碧南市、高浜市、西尾市、みよし市、幸田町などが「西三河」に、豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、豊根村、東栄町などが「東三河」です。

三河の方言

三河弁で有名なのが「じゃん・だら・りん」です。その中でも知名度が高く、よく使われているのが「～じゃん」です。標準語では「～なんだよね」と言ったところでしょうか。

「～だがや」もよく使います。標準語では「～です（だよね）」です。

名古屋弁では「～だがね」とな

ります。名古屋の漫画家の鳥山明先生の初期の代表作に出てくるキャラクターも、この助動詞をよく使っていました。

「だがや」の思い出

私が入学して間もない頃、JR中野駅から中央線・総武線を乗り継いで稲毛まで通っていました。当時、一緒に通学していた同級生から、電車が千駄ヶ谷駅、市ヶ谷駅を通過するたびに、「今、何駅だった？」と聞かれるので、素直に「市ヶ谷だがや」「今は千駄ヶ谷だがや」と答えていました。何日かこのやり取りが続いたところで、やっと気がきました。駅名に付く「だがや」と、方言の「だがや」が重なることが面白がられていたようでした。

東京歯科大学に入学し、日本全

国の出会い。親元を離れ、一人暮らしを始めたばかりで、心踊る頃の楽しい思い出です。

こんなことも

名古屋の中心地にある愛知県歯科医師会館などで会議が開催される時には、東三河の先生方は移動距離が長くなってしまったために新幹線を使用される先生も多くいらっしゃいますが、その積極的な参加に対する姿勢にはいつも感心させられます。

いいじゃん三河

徳川家康さんにもつわる歴史と岡崎城、豊川稲荷、西尾のお茶、一色の鰻、岡崎の八丁味噌、知立の藤田屋大あんまき、トヨタ自動車、安城の七夕、猿投の梨・桃、足助の香嵐溪の紅葉、豊橋のヤマサのちくわ・うずら・カレーうどん等々、三河にも歴史・文化・食・産業・観光などがたくさんあります。三河はとってもいいところなんです！

もしも、豊田市にお越しになる機会がありましたら、昭和町にある、昭和29年創業の松丈さんの「チキンコロッケ」を召し上がってみてください。

秋の香嵐溪



豊川稲荷

